

香葉



1973

NO. 4



目 次

虹が見たい	安藤寿々代	1	
本学の開拓と発展	林 淳三	2	
卒業生と私	檜垣 好子	3	
「展 望」		4	
海外活動		7	
「坂田祐と関東学院」		8	
「香報室」		9	
集いの窓		13	
四十八年度総会報告		16	
各科だより		18	
母校ニュース		20	
編集後記		22	
表紙	関 頼武氏	カット	青木千恵子

虹が見たい

幼児教育科長

安藤寿々代



上からの強烈な太陽と道路に反射した熱気を下から受け、川崎特有の何とも云えぬ窒息する様なよごれた空気の中をフラフラ歩き、やっとたずね当てた一つの保育園では、丁度お昼寝の時間。三つの教室の床上に、じかに並べられた小さなうすいの餅のような布団の上に、思い思いの無邪気な格好でどの子も皆よく寝ていた。あまり広くない庭から、カーテンをなびかせる重いなまぬるい風が、鱈子を並べた様な子供の上を通っていた。三方を道路にかこまれているせいか、絶えず騒音と光が入ってくる。それでもこの子供達は毎朝、定った時間に通園し、保母さんの指導のもとに一日のプログラムを過し、夕方疲れた母親に引き取られるまで、この中で生活しなければならぬ。このよごれた空気の中で、そして汚染されているかも知れない食事をとりながら、果してこの子等は正常に成長出来るのかと暗い気持ちで園を後にした。

朝夕ユラユラ動く赤い鯉や金魚を眺め楽しんでた我家の

池でも、このところ毎日一匹二匹と魚が浮かび上り、一週間ばかり前に最後の一匹も浮かんで、ついに全滅してしまつた。少しは風も入り、緑もある高台の我家も、あの川崎と同じ日本にある。又日本人を『実験台の上のカナリヤ』と評しているアメリカも、この地球上からのがれることは出来ない。全ての生物が呼吸出来なくなり、水も飲めなくなる、亡びの道に音を立てて走っているのではないかと感じられてならない。今日この頃である。そしてその先頭を人間が傲慢な、したり顔をして突進している。もうおそいのではないか。戻れないのではないか。今私は創世記のノアの話、ソドムとゴモラの話が思い出されてならない。全ては社会が、政治が、組織が悪いと、怪物の様なものに拳を上げる前に、その怪物を作り上げて一人一人がまず自分の胸に手を当て謙虚な思いで反省して見る必要があるのではないか。その様な時が来ている。いつの日か再び都会の空の上に、あの神の契約の徴しるしの虹をくつきりと私は見たい。その虹の出現の時こそ、有限なる人間は無限なる神の恩寵めぐみにあづかることが出来るのではないかと信じてやまない。

本学の開拓と発展



学 長

林 淳 三

私は自分の専門の食物栄養学を研究するときは、常に先輩研究者の諸業績を調べて確認し、それをもとにして新しい研究を進める方法をとります。新しいことを研究、開発することには、いろいろな困難なことや苦しみがつきまといいますが、それをのり越えて解決に努力することが、現代のわれわれ研究者に荷された責務であり、人類の幸福、発展に多少なりとも寄与していると信じています。

このことは、学校における教育や管理運営にも当てはまることでありましよう。すなわち、学校の建学精神や伝統は、先輩の礎いた研究業績に当り、確固たる学校の基本となっています。われわれ学校の継承者は、それを十分理解して、その上に教育の改良工夫を加え、きびしい現実と直面しながら、新分野を開拓して行くことにより、その学校の発展が期待されるのでありましよう。そしてこれは私が過去五ヶ年間学長として本学運営を行ってきた原理でもありましよう。

この四月から発足した幼児教育科は、関東学院の建学の理想にふさわしく、女子の短大教育に適した学科であります。しかし、その設置には多くの困難なことがありましたが、教職員一致協力してその実現に努力したのであります。そして現在の関東学院女子短期大学は、この幼児教育科に、既設の英文科、国文科、家政科を併せ、神奈川県下短大（20校）の中でも、最も総合制をもった短期大学となったわけでありまよう。

幼児教育科の教育は、新装なった五階建短大三号館で、最新の設備のもとに行なわれております。この三号館はハンソン山跡にあり、昨年建築した短大体育館とともに短大室の木校舎と命名しました。これは短大移転第一期工事でありまして、今後約一〇年間に第二期、第三期工事をへて、平潟湾を眼下にのぞむ短大校舎が造られて行く予定です。これからはこうした校舎の整備とともに、教育の内容にもいろいろ改革を加え、充実した女子の高等教育機関としたいと考えております。

最後に卒業生の皆さんにお願いしたいことは、本学は出身者の八割が神奈川県内であり、他の短大が五割以上県外者であることから考えると、もっと他府県出身者を受け入れる必要があります。そして関東学院女子短大を神奈川県一の短大から、全国有数の短大に発展させるようご協力方をお願いいたします。

卒業生と私



松垣好子

近頃、突然に相手のよくわからない方から電話がかかり、戸惑うことがたびたびあります。そして暫くして「あ、そうでしたね、○さんだったのね」とお返事をする人が多いのです。先日も電話口で戸惑っているうちに私の頭に浮んだのは、はつらつとした美しいお嬢さんの姿でしたが、会話の内容は中年すぎの奥様であつて「もう子供も医科大学に二人通っています」とか「最近時間が出て来たのでお花の先生をしています」とか「お茶の先生をしています」とか「教会の役員をして活躍しています」とか、又「病院で薬局長を十年しています」とかと云うわけで、お話と私の頭に浮ぶ姿に大きな開きのあることを感じました。こんな時しみじみと過ぎ越し方を回想して、月日の流れの早いことを感じさせられました。

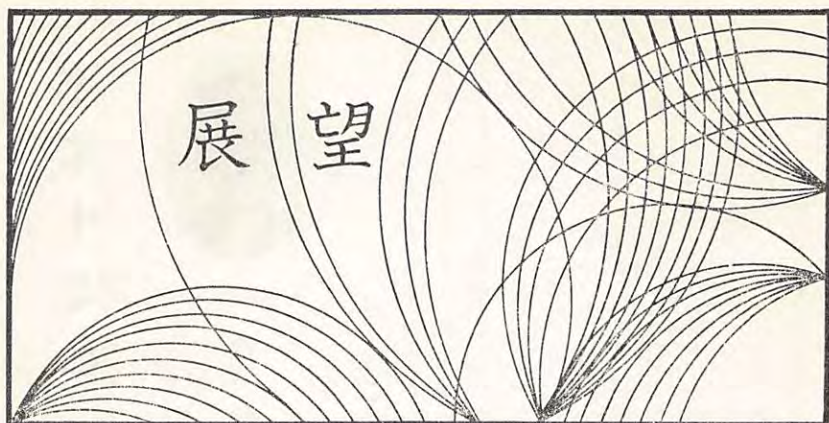
関東学院は、将来の日本の建設には女子に高等教育を授けなければとの考えのもとに、女子専門学校が創設されたのですが、企画

のすばらしさに対し経営の方はむつかしく、もう止めた方がよいのではないかとさえ云う人もあつたようです。そこで、この女専の下に女子高等学校を併設されました。そして実業高等学校の色をこくして特色ある教育を展開しました。柴先生、兵藤先生、小滝先生、女専一回生の中野さんなどもそのメンバーでした。

この女子高の第一回の卒業生が先日数人で私の家を訪ねて下さいました。さきの電話の話もこの方々です。二十年振りにお会いした時なつかしさで胸が一杯になりました。又一方ではそのしつかりされたお姿に頭の下がる思いがいたしました。よき家庭の主婦として、又色々の意味で社会的に活躍されて、よき奉仕の日々を送っていらっしゃるのです。お話を聞いていて、こんなに立派になられたかと心ひそかに大きな誇りを感じ、話に花が咲き夕方暗くなるまで時の経つのも忘れたのでした。これはほんの一例です。苦難の途を乗り越えた本短大は今すばらしい発展を遂げました。そしてここまでになるためにはこれに似たお話も数えきれない程あつて、老いのこの胸をとどろかすよろこびにひたらしていたでいるのです。この女子高の卒業生が帰りぎわに「私共の誇りは関東学院を卒業したことです」と申されました。この誇りを関東学院女子短大のつづく眼り持っていたくことは、私共のつとめではないでしょうか。

(家政科 教授)





「今は昔」

日向一雅

「昔」といつてもこの短大に転勤する前までのことにすぎないが、しばらく都立の定時制高校に勤めていた。比較的地の利にめぐまれた交通の便のよいところであったが、年々

生徒は減少する傾向が強く、一学年四学級の全生徒数は百人を割るのが通常であった。したがって一学級は二〇人前後になるわけだ、多くの教師体験は多くても二十数人の生徒を対象とする、きわめて恵まれた条件（生徒数の上で）のなかではじめられていたといえる。

こういう経験を土台にもっているものだから九〇人をこえるような学生を前に講義するのは恐怖の的であった。第一に、声が後までとおるのかどうか、気がかりであった。それは今も変わらない。話すからにはわかるように話したいし、わかっている点で、発声の訓練の希望であるから。そういう点で、発声の訓練でもしなければならぬんじゃないかと気遣うこともある。（あまり真剣にはないが）

それに関連して、大声で話そうとするとどうしても舌がなめらかに動かなくなるような気がする。とは、すなわち話題の展開を流暢になしえないという意であるが、これは、新前の未熟の故であろうか。ともあれ、授業がコミュニケーションを媒介として成立する場であるとすれば、マス・プロ授業は好ましくないな、というきわめてありふれた感想を実感として持ったということである。

（国文科 講師）

思い出を辿りながら

門根 静子

この夏休みには偶然の重なりですが、北海道旅行、上高地周辺と、三春台短大時代の思い出を懐しく辿りながら歩いて参りました。さいはての地への旅は四十才以上ご遠慮をという交通公社のエアスヤングにちゃっかり年を忘れての参加、あなた委せの旅は始めてでしたが気楽で楽しい旅でした。上高地は中高生と——これはまた必死の思いで曲る腰を押し押し潤沢、蝶ヶ岳へと登りました。自然と

の触れ合いは私を大きくしてくれました。

今年秋の訪れがことの外早いようになっていますが、あの頃秋になると授業で社交ダンスがありました。が教える為に個人レッスンを受けてはスロー、クイック等と口ずさみながら仕上げをいたしました。卒業ダンスパーティーは男性集めの苦勞はありましたが仲々評判もよく、「別れのワルツ」は惜別の思い一杯で踊ったものでございます。或一夕教職員十人程で、生の音楽に足前？を試してみようとクリフサイドにでかけました。滑りの悪い学校内と違つて滑る滑るでこわごわスタイル、ムードに酔つて音痴の連続、日頃の足前も何処へやらでしたが楽しいものでした。その帰路市電の中で私達はうきうきとおしゃべりをしておりました。と見知らぬ青年が「マダムお手をどうぞ」といきなり私の前に両手を差出したものですから、とつさに右手を預けますと、青年は片膝を立て、その手に接吻をいたしました。まるで演劇でもしているような格好で——。私にも授業の裏話にこんな甘い思い出がございました。

ではあの頃の皆様、何時までもお若くお元気で——。九月二十日夜、虫の声をききつつ記。

(旧 教員)

夏期研修

加藤 紀子

八月初に、緑樹に囲まれた御殿場の東山荘で開催されたキリスト教学校教員同盟による研究集会に参加した。

今夏の研究集会の主題は、「キリスト教主義学校教育の起点」であり、発題は「教育の場からみたキリスト教教育」「宣教師からみた日本のキリスト教学校教育」「同和教育のすすめ」「教育と経営」などであった。これらの中で、特に私が注目したのは、某短大教授による「現時点における女子大無用論」の発言であった。

歴史的にみて、明治初期、高い理想と期待をもつて「新しい女性」をうみだしていったキリスト教主義女子学校の果した意義は深い。しかし、現在、性を異にしてキリスト教教育がすべき女性像とは、いかなる人格をもつた人間像であるのか。短大が、良妻賢母型の女性をつくりだす花嫁学校や、単なる職業教育学校に墮することなく、主体性をもつた、

つまり真の意味での自由意志をもつた女性かどうかのように育成していくのか、神より創られた男女の決定的差は、どのように教育とかわるのか、問題は大きく、速答できるものではないけれど、しかし、キリスト教主義女子学校の存立の意味は、新たな光の下で再考されなければならぬ課題のように思われる。二十年余の歴史を持つ我が短大の創立時の教育理念、そして受け継がれてきた建学の精神をより確かなものとして伝えていくためには香葉会などを通してもっと対話を深めていく必要があるかもしれない。

最近、ウーマン・リブに興味をもつて、米国のリブ論を調べていると、女子教育の重要性を痛感するのである。(英文科 講師)

子どもからの学び

丸山 昭一

七月の下旬、私は一冊の本を贈呈されました。あと三年間しか生きることのできない、進行性筋ジストロフィーの子の記録です。本の表紙には、たとえばくに明日はなくとも、

とありました。著者石川正一くんは十七才ですが、幼児期よりずっと私の教え子であり、心の友として今日に至っています。

私は彼との出会いによって多くのことを学びました。

その中の会話で

「先生、ぼくは大きくなったら、えらい人になるんだよ。先生はえらい人と言うのはなんだかわかる？ それはね、心の美しい人であると言うことなんだよ。また「ぼくはあと三年しか生きられないんだ、でも三年後に死ぬと言うことが判っているから、その日、その日を心おきなく生活できるから幸せだよ。他の人たちはいつ死ぬかわからないから毎日をつつかり過ごしてしまうことが多いから不幸だよね。」

これらのことばから、子どもたちを教える立場である者にとつて、子どもから学ぶことがたくさんあることを折にふれて知らされてきました。このように他では学ぶことのできない仕事に就いた幸せを味わっている毎日です。人間として一番大切な幼児期を指導する者として一日、一日を充実した生活ができるように、また「死ぬまぎわになつて、あわてたんじや人間のねうちがないからね、天国で

神さまに会つた時、少くとも、ぼくにできる範圍のことは立派にやってきましたつて、ぼくははつきりそう言うのだ。」と言う彼に負けぬように頑張つて行きたいと思ひます。

(幼児教育科 講師)

美しい水と空気を

渡辺紀子

早いもので私が関東学院に奉職して三年半になろうとしている。

先般、はじめて香葉会の総会に同席し、大先輩の立派な方々にお目にかかり改めて歴史の深さを考えさせられた思ひでした。

昔は一号館の前でも、のんびり魚釣りをしたこともあつたと聞かされても、今では信じがたくなつてしまつた。

我々の身近な水も空気も刻々と侵されつつあり、対処のほどかさをおぼえる今日である。

現在私は被服整理学を担当しているが、今夏の夏季セミナーに参加した折、ある洗剤メーカーの方より「非イオン活性剤の商品化をめざしている」ということを聞き、いく分ほつとさせられた。非イオン活性剤は、現在、

主に使われている陰イオン活性剤に比べて使用量が半程度で充分であるし、洗浄力もはるかにすぐれている。すすぎの回数も少なくてすむ。又、洗剤を分解する酸素消費量も極めて済むと言われている。

洗剤も水も酸素も大切な資源であると考え、と、すぐにも切り替えて欲しいものである。しかしながら如何んせん消費者が、泡立ちの悪い非イオン洗剤には（泡は洗浄には害であるのに……）見向きもしないらしい。

メーカーよりは是非、消費者教育を徹底して欲しいとの要望があつた。正に、我々の側にも責任があると痛感した次第である。

少しでも長く、美しい水と空気を我々の子孫に残せる様にと念じながら、下手な講義をづけようと思つている。（家政科 講師）



海外活動

本年度より、海外短期留学制度が実施され、今年はお二人の先生が、それぞれ、イギリス、ドイツで活躍されました。そこで、さっそく、そのお二人の先生方に感想文をお願いしました。

イギリス瞥見

徳 永 透

本年四月の教授会で、英国における夏期研修を許された私は七月二十八日夜あわただしく旅立ったのだが、振り返ってみると夢の間のでき事であった。北回りの空の旅の間中、機外の気象の神秘が私の心を占領していた。際限のない氷原に巨大な雲男が綿アメをち切っている。上空の紺色と下界の純白の対照が眼に鮮烈だ。BA機の翼は終始銀光を発していた。夢幻する雲海を過ぎて、かつ色の岩肌の広がりを見渡すると、やがて一面の霧をぬつ

て緑の縞が鮮明になった。英国に着陸する。

主眼はこの国の夏と人とその生活をつぶさにのぞき見ることにあつた。BBC主催の英語研究講座の合同をみて、私はよく田園地方へ出かけた。土地の古老と語り草花に触れた。T・グレイの墓地の静ひつなたはずまいと、そこに咲きそろつた多彩なバラは印象的だった。記念碑のそばの牧場の薄暮は「哀歌」さながらの情景をとどめていてうれしい。

チヨウサー、シエイクスピア、ハーディゆかりの地、名門校イートンやオックスフォード、ケムブリッジの大学町、ロンドン塔やウインザー城、広大な緑の公園等を訪ねた。

今イギリスは名所旧跡に富む観光の国だ。栄光の過去と現在の時の交錯する光の中で、私は無心にカメラのシャッターを切つた。大英博物館のギリシヤの古壺とウエストミンスター寺院の現代詩人T・Sエリオットの碑銘に感動する。十六世紀の詩人スペンサーが、美わしのテムズよ、やさしく流れよ

わが歌の尽くるまでと歌つたテムズの流れはパリのセーヌ程の詩趣に欠けるとしても、ロンドンの今昔を映す心の河である。旅情もまたこの河に極まる。

(英文科 助教授)

第六回 国際栄養会議

に出席して

山口和子

西ドイツ・ニーダー・ザクセン州の首府・ハノーバー市は、第二次世界大戦で大部分が潰滅されたと聞いていたが、緑の多い公園と広い道路で構成され、すがすがしい美しさでゆつたりと落ちついた文化都市であつた。

ここ、ハノーバー市のスタッドホールで、この五月、世界五十数カ国が参加して国際栄養会議が開催された。この会議では、環境と食物、健康と病態における栄養と食物、栄養教育など実践栄養学に関する問題がテーマである。

一週間の会期を通じて最も感心させられたことは、自由でのびのびとした雰囲気のおかげで、じつくりと手堅く整然と進められた会議運営のすばらしさだった。

優に三千人を収容できるクツペルザレのステージは参加国の国旗とあふれるほどのお

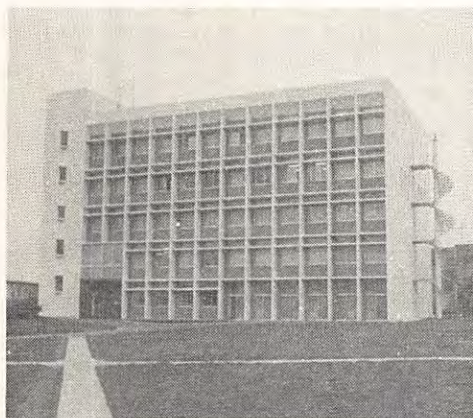
花で飾られ、和やかに総会と記念講演が行なわれた。各国の参加者は同時通訳の独仏英西の四カ国語のいずれかで聴取できるようにレシパーが用意されていた。

私達のシンポジウムはベートーベンザアレで開かれたが、発表に先だち座長、副座長とメンバーの昼食会がもたれ、お互いの紹介、発表内容などについて、ていねいな懇談が行なわれた。メンバーは、西ドイツ、イギリス、ブラジル、USA、日本の五人で、座長は食品工業界の世界的権威D・W・シヨイトハイヌで、四月にグイエット、フードの会議で来日されていたが、その部厚い資料をわざわざ持参され、あなたこの会議をご存知？とたずねられた。よく存じていますと答えた私は、この細やかな心づかいが嬉しかった。快いうちに予定通りの会議も終り、住みつきたいほどの未練を抑えて、帰国の途についた。

(家政科 助教授)

☆三号館完成

女子短大がハンソン山跡地(室の木校地)に移転する計画は着々と進行中ですが、今回その建築計画第一期の三号館(写真)が完成いたしました。エレベーターはもとより、約三百名収容できる大教室、図書室、ピアノ練習室、その他近代的諸設備のある五階建のそれは立派な建物です。現在、主に、新設の幼児教育科と、国文科が使用しています。是非一度おたちより下さい。



「坂田 祐と関東学院」

有隣堂書店

坂田祐先生が逝かれて早三年。いまここに、学院の歴史の各時期に於ける先生の言葉と文章を集め一冊の書物として世に賜ることとなりました。これに依つて、関東学院存立の基礎である建学の精神を明確にして将来の発展に資するとともに、恩師への感謝の思いを表わしたいと願うものです。同窓生の方々に是非一読をお推めします。

香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、詩、和歌、俳句、隨筆、等の発表の場として、用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたくお願いいたします。同封の原稿用紙を御使用下さい。

学校創立奮闘記

田 牧 洋 子

「マコト」「イエシユ」「イチロー」「イエシユ」「タケシ」「ノー」「あれ、イエシユって云うんだよ。」「だって、ボク、キカイダーゼロワンだぞ。」「……」。キヤアキヤア、ワイワイ……。幼稚園の英語のお遊びが始まりました。子供達は、青い目の先生と飛んだり跳ねたり、粘土や折紙、お絵かきも大好きです。「校長先生、入学希望の坊やなんですけど……。」「?」「未だ二才なんです。」

……。
小学生のクラスでは、「僕のジャンボジェット旅行」「英語の寸劇」の映画観賞中です。どの子も目を輝やかし、身を乗り出しています。と、突然男の子が、どなりました。「今はネ、コンコルドの時代だぞ」「うるさいノ黙れよ」「ピー、クワイエットよ」「やったあ。」

「奥様、何を召上る?」「エビフライはいかが?」「あたくし、目下減量中ですのでサ

ラダ。」「あら、ご冗談を。奥様、スマートでいらつしやるのに。」「こんな調子でペラペラ英語をしゃべるのが目的の女性教室実習時間です。近くのレストランを借り、食事を楽しみながら、教室で学んだ英会話を実践する日です。「先生、おいしい御馳走が冷めちゃいますから、喰べ終る迄日本語で一寸失礼。」「賛成。」「パチパチ」担任の外人教師と顔を見合わせて大笑いしています。

関東学院女子高の英語科一期生、短大英文科一期生として卒業以来二十余年が過ぎました。米国留学中も、まさか自分で英語学校を創立するなんて夢にも思っていなかった私が大学の講師やテレビの英会話番組のお手伝いをしている内に、小グループで買物籠でもぶら下げて気楽に「ハロー」と入って来れるような雰囲気のある学校らしからぬ学校を作ってみようと思いついたのが二年前でした。教える方は経験を生かすにしても、何しろ資金ゼロでスタートしたのですから大変です。でも根っからの当って砕けるの性格で、基礎工事も出来ていない中野駅前のビルの分譲広告を目にし一直線、販売会社に入り込み、初対面の社長を説得し、契約金支払一ヶ月後の約束をとりつけ、その足であらゆる金融機関をとび

廻り、あきれて見ていた主人も事ここに到つては、と重い腰を上げやつと期限すれすれに契約成立。残りは建物を抵当に銀行ローンを取りつけて、とに角入れ物だけはこれで確保した訳です。次の日からは設計、カリキュラム作成、入学案内等の原稿書きで徹夜の強行軍が始まりました。こんな母親のモーレツハッスル振りに恐れを為したか二人の娘達も文句も云わず、かえって「ママ、頑張れ」と肩をたたいて親孝行らしき真似ごとをしてくれます。

いよいよ理想に近い教室が完成し什器一式が必要になり、印刷物も発注しなくてはなりません。幸わい無理な注文——支払一ヶ月後分割払い——を受けて呉れた業者があつて、これも無事着着。電話も入り、広告看板を出したら、来るわ来るわ、銀行の外交とセールスマンが入れかわりたちかわり。こちらはようやくたら生徒が集まるのか頭を痛めているのに。バスで二つ三つ先の停留所で降り、大きな紙袋に入れたポスターを貼りました。その二日後、警察の交通安全係から電話で、「電柱に貼つては駄目」夜半おそるおそる車で剝がして廻っている内、おかしくなつて笑い出す次第。所が一応断つて貼らせてもらつた場所に

見当らないのです。貼つてもすぐに剝がされているのです。同種の学校さんが、御丁寧に剝がし廻つていたのでした。成程、選挙のポスターだけの世界では無いのだなあ。只感心してもいられません。早速モチ屋はモチ屋と、広告代理店を入れて宣伝開始。これで生徒が一人も集まらなかつたら、一ヶ月後には夜逃げをしなくては、と悲壮感が襲ってくる。「えい、ま、よ、よ」税務署を始めとする煩雑な業務処理の合間をぬつて16ミリ映写技術の講習会に出たり、経理一式の特訓を受ける。

こうして昭和四十七年九月一日開校。それから満一年が経ちました。多忙を極める毎日ですが、クラス数三〇、生徒も二百数十名になり、無事に集立つことが出来ました。いや未だヨチヨチと歩いている最中です。ユニークな教授法とやらで、マスコミの取材も多くなりました。教育者、経営者のピリツ子から果たしてどこ迄成長するか。さあ来月のカリキュラムに目を通さなくては。母親参観、個別指導のプログラムも山積みしています。香葉会の皆様、ご声援下さい。

(短英 1)

卒業してみて

高橋 千栄子

三春台の女子高を卒業して早や二十一年、アツと言う間に過ぎてしまいました。

現在私は家庭に入つて落ちついた毎日を送つておりますが、今でも、もう一度学校に入つて若い人達と一語になつて勉強したい気持ちがあります。自分の時間が創り出せません。もう少し子供も大きくなつて余裕が出来る日を楽しみにしております。

私と同期の方達との交流は度々致しておりますが、皆様大変幸福な毎日を送っております。しかし先生方とお目にかかる機会は仲々持てません。いかがお過ごしでしょうか。いらっしゃいますか？ 一目お逢いしたいと思つております。

現在母校は年々発展し、内容も一段と充実し環境に恵まれた中で勉強が出来るようになっております。どうかこれからもますます母校が発展して行きますようにと心からお祈り

致しております。

いつも何かと御世話いただいている上市先生どうも有難うございます。紙面をおかりして御礼申し上げます。

(高英3・旧福代)

登山と私

丸山 るみ子

学生時代までおよそ山に縁のなかった私が、

山好きの夫に従って最初に登った山が、槍ヶ岳であった。いわゆるアルプス銀座を、まだ行き会う人もまばらな頃、山小舎に二泊して上高地に下る途中、横尾か徳沢あたりで華やかな一団に出会った。その中に光畑先生と兵藤先生を見出した時の驚きと喜びは今も鮮明に心に残っている。美しい後輩達の視線が、山女スタイルの私には一寸気恥しかったことも……。

それから十年余は育児に明け暮れたが、五年前から今度は成長した子供達に励まされながら毎年山道を歩くようになった。

白馬山・槍ヶ岳・八ヶ岳徒走、富士山・立山三山から剣岳へと、いつも体力の限界を感じ

ながら毎年主人や子供達にいたわれ、励まされて登っている。

「白馬大池で見た夕風に微かに揺れているチングルマの群落」「緑の絨氈を敷きつめたような道松」「可愛らしい親子連れの雷鳥」

「西岳の小舎の昏く夕焼けの空にくっきり浮かぶ穂高連峰」「自分の影に虹の輪をいたたくブロッケン現象」「静寂冷気の中で待つ御来迎」等々、山の素晴らしさを数えあげた一枚卒にいとまがない。

そして何よりも苦勞してやっと辿りついた山頂で、来し方を振りかえり、よくぞ登ったという満足感と、前に踏破した山々が峻厳たる雄姿を見せてくれた時の喜びが、又来年のエネルギー源になってくれることだろう。

(短英2・旧秋葉)

懐しいあの頃

西川 ひろ子

原稿を依頼されましたが、どうして良いかわからず、ペンを持ち紙を前にして短大時代を思い返してみました。家政科に入学はした

ものの針を持つのがイヤになったり、調理の時間は食べる事ばかり考え、ねむいのをがまんして聞いた講義、真面目に行なった実験、等々……。でも、一番思い出深いのはクラブの練習の時の事です。本当にあの頃が懐かしく思い出されます。

そんな事を考えている時、思いもかけない嬉しい出来事にぶつかりました。卒業以来、二無沙汰している先輩二人が尋ねて来てくださったのです。一ヶ月程前偶然お会いした方でした。交差点の真中で信号が赤に変わったのも気づかず、懐かしさのあまり夢中で話していたのです。あの時お話しした私の勤め先を覚えてくださったのでしょうか。「元氣?これ差入れよ」とにっこり笑いながら来て下さったのです。短大時代に戻った様に話に華が咲きました。四月にクラブに入った時は、野島公園までのマラソンができず、いつも部員の中で最後。でも、いつもそばについて励ましてくれた先輩。そのおかげで苦手なマラソンも夏の合宿には皆と一諸に走れる様になりました。二年になり後輩が出来た時、私は、自然に遅い部員についていました。

「先輩」「後輩」学生時代だから味わう事が出来た人間関係。これを機会に大切にいつま

でも末永くおつきあいしていきたいと思っております。

(短家 19)

学生時代の思い出

中村 麻利子

社会の一員として早四ヶ月の月日がたった。

社会生活にも慣れ、一見社会人らしくなってきたが、まだまだ学生ぼさが抜けきらない私。この四ヶ月めまぐるしく月日がたち、慣れない環境で神経を使う事がいかに重労働なものかとしみじみ感じた。だからというわけではないが、卒業して初めて学生の良さというものがわかった。短大時代の私は、決して良い学生ではなかった。何といつても授業をよくサボった。毎日手帳に、休んだというようサボった回数を記入して、この課目はあと何回休めるとか、もうこれ以上休むと単位がもらえそうもないとか、計算しながら休んでいたのである。会社ではそうもいかない。また長い夏休みもアルバイトするわけでもなく、旅行に行くわけでもなく、ただ家でブラ

ブラとしていたので、今年の夏は、私にとつて相当つらい夏だった。学生時代を陽の生活とすれば、今は陰の生活。それにビルの中で生活しているから、学院の広々とした風景、澄んだ空気に青い空がなつかしい。関東学院とは、二年間しかおつき合いがなかったけれど、これからの私の長い人生の中で、いつでも思い出す事だろう。また私自身忘れたいくない。いつも心の奥深くに学院の事は残しておきたいから。

(短英 22)

今思うこと

江口 和子

幼稚園の先生になるための条件と言えば、まず「幼児が好き」ということだと思います。どんなに学門的に幼児の研究しても嫌いだは先生になれません。私も幼児が大好きです。幼児の遊ぶ姿、話す顔を見ていると、とても楽しくなってきました。むじやきな笑い顔、すなおな心、澄んだ目、かわいらしい行動、絶えず動く身体……どれをとつても生き生きし

た感じがうかがえます。一つ一つ年をとるごとに失ってしまったもの、世の中がわかって来るにつれ、変化してしまつたもの……幼児のもっているよさを私達大人も本当はいつまでも持ち続けたいのです。幼児の世界には幼児なりのきまりがあり、考え方、見方があります。それは大人の世界とは違って、それでよく大人に叱られたり、止めさせられたりします。しかし、幼児の立場になつて考えると、間違っていないことも少なくありません。私は幼児教育科を卒業して幼稚園あるいは保育所の先生になられる学生に願うことは、幼児を心から愛し、判断できるように努力をおしまないでほしいということです。大人は幼児期を通ってきたので、努力さえすれば幼児を理解できます。しかし、幼児には大人を理解することはできません。少しでも幼児のことを考えるなら、大人の尺度で見ないことです。そして先生であると同時に時には母親にも、友達にもなれるような人になつてほしいと思います。私は立場が変わつてしまいましたが、少しでも幼児のためになるようにしたいと思いながら、先生の養成を手伝っています。

(短家 17)

集いの窓



クラス会

市川貞子

短大第三回生のクラス会が、昨年十一月十二日(日曜日)横浜市内にございます同窓別館で催されました。日曜日でお出にくかったのが、一時からと申してましたのに、出席者全員がお集まりになったのは二時近かったように思います。総員二十五名位でしたでしょうか……。

昔と少しもお変りにならない小滝先生をお迎えして、会は盛り上ってまいりました。他の先生方はご都合でご出席いたゞけなくて残念に思われました。

次々に運ばれてまいります中華料理、飲物を口にしなが、思い出懐かしい黄金町時代の話から、子供達の話へと、次々に話題が移ってまいります、会はたけなわとなりました。幹事さんの提案で自己紹介を小滝先生から始められ、一巡いたしました。その際、最近の短大の発展ぶり、諸先生方の近況をお聞きして、

懐かしく思われました。

二時間余りの時間で、学生時代のあれこれを話し合い、ご出席出来ない方達の近況も伺えて、大変心満ちた一日でした。次回には、今日ご出席出来なかった方々が、一人でも多く、お顔をお見せいただければ、一段と充実したクラス会になる事と存じます。

(短英3・旧青木)

母校での集い

杉山美和子

好天に恵まれた六月二十四日、懐かしの母校で何年かぶりに、私達のクラス会が開かれました。浮き立つ思いで降り立った内川橋では、久々に見る平潟湾に家々が立ち並ぶのに驚き、大学のおんぼろ校舎は、堂々とそびえ立つ新館に変貌し、何か別の地に来たようでした。当日お忙しい中をご出席下さった鳥越井口両先生、お優しい目も話される口もとも、以前とちつともお変りなく、益々ご活躍の様子でしたし、出張先からとんぼ帰りでご出席下さった上市先生からは、これまで発展し充実した短大の経過と将来等を伺いました。

幹事でご苦労いただいた石田さん、川田さん、千葉からご主人に送っていたいたという高橋さん、出産間近の佐藤さん、何故か独身という八木さん、大黒さん、吉野さん、又家事を離れてのびのび組の森さん、関さん、勝木さん等、途中から小林さんや熱海さんも加わって、子供の声も混りながら昔話や近況にと賑やかなお喋りが続きました。お互いの名前もおぼろげな私達の中で、クラスの事を良く覚えていて下さった先生方には、大変感激いたしました。ご都合が悪くて来られなかった松垣先生は、もう七十余歳になられるとのこと、先生のご長寿を願わずにはいられません。欠席された方々のおたよりからは、各地に散って各自の生活を営まれている様子が伺われ、女性にとつて変化の多い十年を感じました……。

昔日の面影もない短大の校舎を羨望と喜びと、そしてちよびり淋しさが入り混つた思いで眺めながら、あれこれとつきぬ話を後に再会を願って別れを告げました。学生時代を思い出す本当に楽しいひとときを過せた私の休日の為に、快よく留守番を引き受けてくれた夫と子供達にも感謝しながら……。

(短家11・田勝侯)

覚え書(四)

——女専・短大小史——

上市 二郎

昭和二十六年に英文科第二部(夜間)が認可されたことは前号において述べたが、一応昼夜の学科を持つ短大が完成した。早速当時の教授会は、研究誌の事を取り上げて種々協議を重ねていた。その結果研究雑誌刊行委員を遣出し、何回かの委員会において細部の検討がなされ、秋までには骨子がまとまった。その中で特に問題とされたのは刊行する費用の点だった。当時出版するのに六万円以上はかかることが分かったが、その費用を捻出する所がなく出来るだけ安く出版してくれる所を委員は各方面に交渉し、やっと横浜刑務所内の印刷部を捜し当てた。二万五千円で賄ってくれることが分かってからは急速に具体的事項が決定し、十月二十五日の教授会において委員会の結論が次のように発表された。

一、雑誌名……「短大論叢」とすること。
二、内容……品位ある學術論文にして専門的研究、文学的、一般教養的分野によるもの、
三、出筆者……本学専任教授、助教、講師たること。
四、原稿は横書にて英文、和文いずれでも可とする。四百字詰二十枚より三十枚までとする。

以上に従って短大論叢創刊号(九十八頁)が昭和二十七年四月三十日誕生したのであります。そして以後毎年引き続き貴重な研究論文が掲載され、本年七月その第四十九集が学生の手に、諸大学の図書館、研究室に、と贈り出されている。創刊号の編集後記には次のように記されている。

「戦後の年に生れた子供が、もう今年は小学に入学する事になった。考えると早いものであるが、同時に生れ出た日本民主主義が途中で發育を止めたと思つたら、今度は眼に見えて衰弱して行く有様は、実にみている胸が痛む心持がする。之は榮養が悪いためであるか、遺伝に依るのであるか、果又環境のためであろうか。何とか応急処置でもしなくてはならぬ場合である。

終戦の翌年、女専として出発した我が校も、今年でそろそろ就学の年齢に達した。振返つ

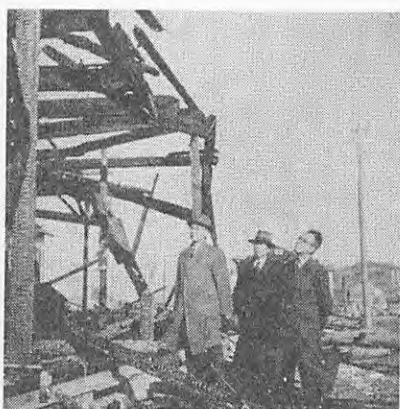
てみると、その日その日の在り方に追われて、やつと此処迄辿りついた我々の足跡には、何か、手を振げて待つ母親めがけて、一心にヨチヨチと歩いて来た幼児の感がない事はない。併しこの幼児は、その悪い榮養や環境にも係らずすくすくと發育して、今や一つの段階に到達したのである。その幼児のふつくらとした手に握られたクレイヨンで、力一ぱいかきなぐられた絵の集りが、この論集であると云つてよい。

之はひからびた大人達の労作集ではない。此処には、たとえ欠けるものがあつたとしても、それは力強い未来の夢をもつ若々しい論文集である。政治の嵐が、かつての日の様にこうした春の生命の芽生えを、根こそぎ枯らす時が来るかも知れない。併し春の太陽は、来る年も来る年も、新たな生命が悉く死滅する事のあり得ない事を我々に教えてくれるのである。

我々はロングフェローのあの有名な詩の様に、この一本の矢の行先を、隅なく追う事は出来ないであろう、この歌の流れ去る先を、どこ迄もきわめる事は出来ないであろう。併しいつの日か……再びあの詩の結末の様に……我々はこの一本の矢が、この一つの歌が、

友の心の中に残されているのを見出したいと思う。(一九五二・四・一〇 T A生)

昭和二十七年といえは直接短期大学に関係はなかったが、六浦校地での大火があった。



六浦校地とは終戦後旧海軍航空技術廠工員養成所の施設、木造二階建を使用して授業が再開され今に至っています。正月五日午前一時半、大学学生寮より出た火は見る見るうちに教職員寮、大学研究室等三棟を灰塵に帰してしまつた。本学のS教授もこの職員寮におられ、罹災された一人である。早速本学教授会は勿論のこと、PTA役員会も一月七日には開かれてその対策が練られている。この火災

の援助については宜教師の方々の特別な努力を通じて米國ミツションボードよりの資金援助を受けたことは深く感謝しなければならぬ。当時の記事に関東学院三十三年の歩みの中で三つの災害として次のようにとり上げている。「三春台の地(兵隊山と呼ばれていた)で誕生した学院は大正十二年九月一日の大震災によつて廃虚と化し、その後昭和二十五年五月二十九日の横浜大空襲で四分の三を焼失し、そして六浦校地での昭和二十七年の大火とである。」また学院小史にも六浦の大火の後次のように書かれている。「かつて兵隊山に関東学院をきづき上げたように、この旧軍施設の中に新しい希望をもつて関東学院の再建が開始されなければならない」と。

この年の三月に女子高等学校の最後の卒業生が社会に巣立つて終りをつげると共に、学校廃止の手続きも五月三十一日に行なわれています。そして、PTAも発展的改称をとげ四月よりは短期大学後援会として再出発したのです。当時のPTA会長小林三郎氏は、後援会会長として今なお引き続き本学のためにご奉仕下されています。なお、女子専門学校の廃止手続きは前年、即ち昭和二十六年三月に完了している。



五月三十日(金)には学生大多数の希望を入れて伊豆一碧湖へ全校生日帰りの遠足が実施されている。親睦を目的としたこの旅は湖畔でのゲーム、湖上に浮べたボートでの語りなど、終日楽しいときを過ごし若き日の思い出を作ったことでしょう。(つづく)

四十八年度

総会報告

体育館に引き続き、短大三号館がハンソン山に完成し、幼児教育科が新設された事は、昨年度の「香葉」での予告でご承知と思いますが、今年はその新校舎の一階にある、学生ホールを使わせていただいて、六月二十四日（日）午後一時から三時半まで開かれました。毎年、総会後の反省に、先生方やお友達とおしゃべりをする時間が足りないという、不満がでておりましたので、今年は、議事の他のプログラムは一切なしという事にして、自由歓談の形にしてみました。梅雨の季節なのですが、総会当日に降られるという事が、過去殆どなく、今回もまずまずの天候、七〇名余りの方が出席してくださいました。礼拝、事務報告、決算報告、予算審議と承認を、三〇分ですませ、後は自由にくつろいだおしゃべりの時間にし、ご希望の方には新校舎内を見学していただきました。香葉会からは、落成のお祝いとして時計をお贈りしました。

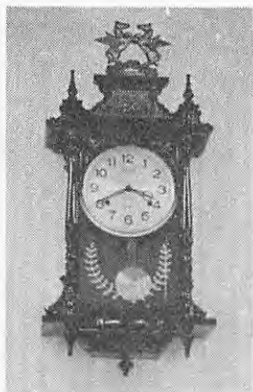
当日、ご出席いただけなかった方もおついで折に、ぜひ足をおのぼしになって、ごらんになってください。安藤先生の科長のもとに、遊戯指導、絵画指導の実習室、ピアノ練習の個室等、誠に充実した設備がととのい、今春初の入学者の中には家庭婦人も居られるとか伺っております。これから最も需要の望まれる幼稚園教諭、保母の育成に力をそそぐ母校の発展に心から声援を送り、微力ながら同窓生として学校に寄与できることは、よい学生を送りこむことではないかと思えます。ご協力ください。当日、残念だったことは現役の先生方のご出席が少なかつたことで、卒業生の中には、お逢いしたいと思つて出席したのに……とご不満の方もかなり多かつたようです。来年からは、なるべく先生方のご出席をお願いして、出てくださる先生のお名前をお知らせしたいと思つております。今回の不手際をお許しください。最後に、毎年準備から後片付けまで協力してくださる、学内に勤務の職員の方々、卒業生の方々に心からお礼申しあげます。

（古城房子記）

（筆者独白）

総会の報告を毎年書いているが「総会」という言葉のひびき丈で、私には関係ない、特

別な人が出るものだという印象をもつてしまふ、という事をよく耳にして、できれば、この言葉を使わずに、もつと親しみを感じる言葉がないものかと悩んでしまふが、会則に「年一回の総会」をうたつてある以上、「総会」といわずにはならないそうである。会員の方から頂いた会費の使い途は報告する義務があるので事務報告ははぶくわけにいかないが、なるべく簡単に短時間ですませ、内容は「楽しい集い」のイメージを心がけているものの、会の終つた後にはいつも不満足と空しさがあるのは主催者側の宿命であろうか。参加者の率直なご意見を伺いたいものである。クラス会のつもりで集まってくださいとよいのだが。「総会」といういかめしい言葉にとられずに……と願っている。



香 葉 会

昭和 47 年度 決算 及び 昭和 48 年度 予算

(自昭47. 4. 1～至昭48. 3. 31)

(自昭48. 4. 1～至昭49. 3. 31)

摘 要		47 年度 予算	47年度決算	差 引	48 年度 予算
収入 の 部	会 費	1,136,000 (@3,200×346人) (@2,400×12人)	1,136,000	0	1,363,200 (@3,200×426人)
	合同よりの援助金	358,000 (@1,000×358人)	358,000	0	426,000 (@1,000×426人)
	前年度よりの繰越金	270,600	270,600	0	292,983
収 入 合 計		1,764,600	1,764,600	0	2,082,183
支 出 の 部	事 業 費	520,000	439,880	80,120	620,000
	総 会 費	100,000	129,620	△ 29,620	150,000
	会 合 費	80,000	30,770	49,230	80,000
	通 信 費	60,000	4,067	55,933	60,000
	交 通 費	50,000	8,640	41,360	50,000
	事 務 印 刷 費	60,000	49,170	10,830	80,000
	給 与 費	220,000	194,900	25,100	240,000
	新 入 会 員 歡 迎 費	45,000	43,250	1,750	47,000
	そ の 他 雑 費	52,600	14,320	38,280	51,383
	予 備 費	40,000	20,000	20,000	50,000
	合 同 分 担 金	465,400 (@1,300×358人)	465,400	0	553,800 (@1,300×426人)
	基本 金 勘 定 へ 繰 出	71,600 (@ 200×358人)	71,600	0	100,000
	次 年 度 へ の 繰 越		292,983	△ 292,983	
支 出 合 計		1,764,600	1,764,600	0	2,082,183



各科だより



英 文 科

昨年四月、高橋博先生を英文科にお迎えしました。横浜市立大学のご出身で、川崎市の高校で教鞭をとられた後、青山学院大学大学院で英語学をご専攻、特に英語のレントタックスを研究しておられます。副手では安芸よう子さんに代つて、本年三月卒業の田辺正子さんが主として英文演習室で図書の管理をしています。

かねてからパブテスト同盟を通じてミッシェンボードに依頼してあつた英会話の専任の先生がやつと八月来日されました。牧師であつたご主人を昨年亡くされ、高校で教えておられました。日本でも働く使命を感じていらつしやいましたので、本学からの英会話教員

紹介の依頼に応じてミッシェンボードから派遣されました。従来の宣教師派遣と異なり、はじめから英会話の先生を要請し、生活費の一部を短大で負担するという方法は最初の試みですが、Mrs. Harold S. Jensen は三人の既婚のお嬢さんがいらつしやるとは思えないほど若々しく、エネルギーで教育熱心な先生ですから、よい結果がもたらされることを期待します。

本学でもやつと教員の海外留学制度が実現され、第一号として徳永先生がこの夏ロンドンに行つてこられました。英文学研究の上にも英語教師としても多くの収穫があつたよう

で喜ばしいことです。
『英語研究』（研究社）で宮川先生が六月号から和文英語を担当しておられますが、熱心に投稿する卒業生がいるとのことです。

（文責・小玉敏子）

家 政 科

年毎に内容の充実と発展の一路をたどりつある我が家政科は、ますます苦々しい生命力にみちあふれて、明日に向つて力強く前進をつづけて居ります。

家政科家政専攻、食物栄養専攻は、ともに近年ほぼ同数に近く、御承知の通り一昨年度食物栄養の定員倍増実施以来、本年度も総計約三百五十名の大家族でにぎわつておりますことは誠に御同慶にたえませぬ。

予告のありました様に、家政専攻は昨年度より根本的に改革されたカリキュラムのもとに、新しい家政専攻課程をうみ出しました。

この中には、卒業年度に家政学特別研究（選択）等もあり、このことは食物栄養課程においても同様であります。

また食物栄養専攻では、なめらかな軌道にのり始めた現在、養成施設の指定基準について来年度より大巾な授業科目の改正が実施される予定で、将来の栄養士の社会的地位に一段と色を添えるものと期待されます。

この家政科を現在の二つに専攻分離された現在、林学長にはいよいよお元気に内外共に極めて御多忙の中から、家政科長も兼任され外では神奈川県栄養士養成施設協会会長として日夜、目覚ましい活躍を続けておられます。将来の家政科の飛躍が想像されます。

初代の家政科長松垣先生にもますますお元気に週一回授業にお出でいただけますことは、この上ない仕合せでございます。鳥越先

生始め、各研究室共一同張切っております。

特にこの号でお伝えしたいことは、山口先生には今春ドイツ、ハノーバーにおける国際栄養士会議で、ビタミンB12の調理科学的研究の発表をなさいましたことで、喜びにたえません。最後に耳よりのニュースとして吉田先生には今春ご結婚なさいました。奥様は？食物一回生であります。また長年努力された陶山助手も七月ご結婚されました。皆様、どうぞお元気で各自の持場、職場で精一杯ご活躍下さい。ご健康を祈ります。

(文責・井口安喜子)

国 文 科

国文科は研究室、演習室とも、今年四月から新築の室ノ木校舎三号館二階に移りました。本が多く、大変だったのですが、益川さんと交替した副手の小林さん(旧姓飯山さん)が頑張ってくれて、尅大な数のダンボールに本をつめ、どうやら新しい部屋に移ることができました。この校地は六浦キャンパスの南端、将来は短大全体がここに移動の予定なので、国文科は幼児教育科とともに、その先陣を引き受けたこととなります。一度遊びに来て下さ

い。

さて、先生方は大城先生を始め皆さん元気でおられます。移動について記しますと、糸川光樹先生が、今年四月からフェリス女子大の方の専任になられました。今後の先生のご活躍を期待しています。その後任として、日向一雅先生を迎えました。日向先生は、東京大学国文科の博士課程を終了しておられて、源氏物語が専攻の研究者です。

ところで、卒業生は毎年百人近くあるわけですが、年月とともに次第に縁遠くなる感じで、時々、女子学生を教えるのはツマランと思ったりしています。「平濁」に通信を寄せるぐらいはしてくれませんか。研究室あてに消息を寄せて下されば、それをそっくり「平濁」に掲載します。

勝手なことを書きましたが、勘弁して下さい。皆さんの活躍と健康を祈ります。

(文責・岡松和夫)

幼 児 教 育 科

この春にいよいよ発足した。エレベーター付のモダンな新幼児教育館には最新の設備が用意されてあるが、内容と伝統を創るのはこ

れからである。教員はこれまで一般教育に所属の安藤(音楽)、佐藤(教育)、望月(心理)の三先生の他に、新しく瓜栗憲三(福祉)、真坂幸二(保健)、水船六洲(美術)、の各教授、山崎花江(音楽リズム)助教授、丸山昭一(児童文化)、梅沢信生(保育内容)の各講師を専任にお迎えし、また、各分野のベテラン・新進の非常勤を多数お願いして正に多士済々である。新入生は総勢九十四名、意外に神奈川県出身者が圧倒的に多い。先輩がいないこともあって入学時はかなり緊張の体であったが、そろそろ慣れて私たちは第一回生といった顔つきが見え始めている。幼児は全員、保免は三十四名の者が取得を希望しているが、どれだけの落伍者が出るか見もの(?)である。始めが肝心なので、保育者にふさわしくない者はどしどし落そうというのが科の方針なのである。他科の学生ののん気な姿を横目で見ながら、この夏休みには早くも保育所の観察が行われた。十月には特殊施設、二月には幼稚園と続き、二年次には本格的な実習が待っている。勉強に実習と学生はさぞ骨の折れることだろうが、これを巡回指導する先生方も大変だ。正に師弟協同の実習である。始めての経験でびつくりしたり、感動したり、学

生たちはそれぞれに貴重な成果をもち帰っているようだ。そのうちに、卒業生の諸姉もわが子の手を引いてその将来を相談にこられ、互いに知恵と力を貸し合って、在學生卒業生をこめての教育のセンターになることが幼児教育科の一つの夢なのである。

(文責 佐藤三郎)

母校ニユース

☆幼児教育科発足

キリスト教学校念願の幼児教育科が一月二十七日に正式認可を受け四月より発足しました。

「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」の例え通り、本科の新入生は新築の三号館(室の木校舎)で学んでいます。本科の教授陣並に紹介は「各科だより」に載せてあります。

☆教員海外留学制度誕生

かねがね実現の望まれていた制度ですが、二年に一名の割で実施されることになりました。今年度は七月から八月にかけて英文科徳永透先生が英国に行つてこられました。その様子は七ページに先生がお書きになっていま

す。こういうことは良いことであります。

☆リトリート

二年生のリトリートが、秋色日増しに濃くなってゆく伊豆天城山荘で行なわれた。

主題は「出会い」、テキストは、速藤周作「わたしが・棄てた・女」。国文・家政科が、十月七日～九日、英文科が、十一日～十三日。

前半の国・家の方は、あいにくの二日続きの雨で、天候に恵まれなかったが、講師の大城富士男教授(国)の主題講演を中心に、主として「出会い」について考え、論じられた。

特別に参加された山下多恵子先生(家)の、パレスチナ旅行のスライドを見ることが出来たのも、このリトリートにふさわしい適切な催しであつたと思う。

後半の英文科は、好天に恵まれた。講師の関田寛雄先生(青山学院大学)の主題講演を中心に、こちらは主として「愛」の問題が取り上げられたように思われる。特に、今夏米国より来日され、本学にて英会話を担当されるミセス・スウイジーの張り切り振りが、このリトリートでの和やかさを増した。

学生発表に、分団懇談会に、テーマ別討論会に、レクリエーションに、そして親睦会に

若い歓声が山荘にみちあふれ、天城の山々にこだました六日間であり、充実したリトリートであつたということが出来るよう。

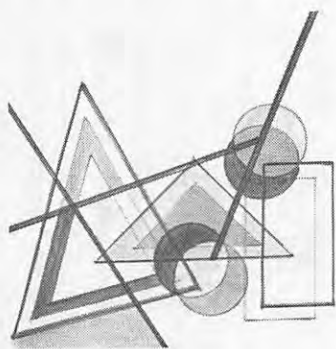
学生数の増大、学外実習などの関係で、年々、リトリートの実施が困難になってきているが、卒業生の皆さん方の心のフルサトになっているであろうこの本学独自の行事を、出来る限り続けてゆくつもりである。

終りに、久しぶりに行なつた川柳大会の入賞作をご紹介します。

「リトリート、教蚊さんにも、チョツと出・会・い」

「助教授を、避けて歩きし、リトリート」

「学長の、無邪気な顔に、われ三振」



☆お よ る こ び

結婚——短大独身男性最後の誓であった家政科吉田博先生はついに陥落され、今春結婚されました。奥様の暁子さんは本学家政食物栄養専攻一回流(旧姓飯倉)で、わが香葉会の会員。庶務課座間弓子さん(家政18回卒)は今秋卒式され、鈴木さんとなり、相変わらず元気に勤務されております。—— 出産 —— 英文科御園和夫先生宅に男子誕生。体育の田山美智子先生は女のお子さんをご出産。

☆退職者・新任者

退職 —— 糸川光樹先生(国文科)、成田汀先生、菅原紀子先生(家政科)、服部紀子先生(一般教育)。英文科安芸よう子さん(短英18)、香葉会事務・家政科石垣昌子さん(短家21)、学生課菊地尚子さん(短英17旧山田)、国文科小林美智子さん(短国3旧飯山)、家政科布谷美知子さん、家政科陶山正代さん(短家17)、教務課・厩瀬俊子さん(短英20) —— どうも長い間ありがとうございました。

新任 —— 日向一雅先生(国文科)、ミセス・スウィーズィー(Sweeney)(英文科)、伊沢三

郎先生、松倉恒夫先生、桜井恒次先生、山下輝彦先生、吉見富美子先生(以上一般教育)などお幼児教育科の新任の先生方のお名前は19ページにあります。幼児教育科江口和子さん(短家17)、家政科飯野尚志さん(短家22)、入試事務課上市不二恵さん(短国2)、庶務課栗田明美さん(短国6)、学生課町田知子さん(短国6)、教務課富田道子さん、図書室小野善良さん(元川崎市立高津図書館長)、図書室清水明代さん(短国6)、英文科田辺正子さん(短英22)。皆さん母校ならびに香葉会発展のために努力して下さっています。

ク ラ ブ 紹 介

室の木校地体育館裏に部室が四つ新設され、各クラブともますますはりきっています。▽美術部——年間保留の形となっていた短大美術部は今年から再び発足する事ができました。一年生ばかりで、何から始めて良いのかわからぬまま半年が過ぎてしまいました。六月、有隣堂ギャラリーでの燦美展、夏季合宿、週一回のクロッキー等、全員はりきって活動しています。

▽ESS——現在一年生三名、二年生十一名の部員で活動しております。外人の講師の方に

ついて主に日常会話の練習とKEL諸行事への参加を通じて、他の大学のESSとも交流を重ねております。また、合宿、文化祭等を通して部員同志の親睦をもちかかっております。▽ハイキング部——わずか七名の部員で青春の夢をリックに積み、見知らぬ地への旅から地図を開きプランを立てる時の心のうずき、その反面、不安なものが横切る。何を求め、何が故にこの重いリックを背負って歩き続けるのか。乙女の甘い感傷的な物はない。ただひたすら歩き続けるのだ。短き短大生生活を考えながら……。

▽茶道部——茶道は、自分自身で茶会、茶席などに進んで参加して体得することが第一です。利休百首には、「はじをすて人に物とひ習ふへしこれぞ上手のもとなりける」と歌われています。皆様も、はじは美德と思っておたしなみ下さい。

▽箏曲部——このめまぐるしい現代社会において、日本の伝統的な古典音楽の良さを一層知りたくて……日本人の心を知りたくて……そんな気持を導くのがお琴なのです。現在の部員、十八名。おしゃべりの好きな、とても明るい現代っ子の集まり。それが箏曲部なのです。

▽写真真部―今年度の私達は「己れの目」を、被写体を通じて少しでも表現しようというこうとを目標においています。各自の作品中に、自分自身の目があるか否かを主眼としています。この点をお含みいただき、短大祭など写真展の際には、皆様方の御意見、御批評をいただきたいと思います。

▽ユース・ホステル・クラブ―忙しい日常生活の環境から解放され、自然の豊かな宝庫に抱かれて、休息とさわやかさを求めることを目的としたこの運動は、今から六十三年前にドイツで始められました。旅をして一つの道を歩み、その道を求め、進んでゆく心を養いたいと思います。

▽ワンダーフォーゲル部―大自然との対話の中で仲間と寝食共にすることによって、自己をみつめて行こう／都会の雑踏から離れ、一歩自然の中に足を踏み入れた時、そこには私達若者の世界が待っていてくれる。この青春を自分達なりに創造して行こうと必死になっている。それがワンダラーの精神なのである。▽書道部―今、私達は人間性を豊かにするために書を学んでいます。点と線の構成・墨色・配置などを自分なりに、自由奔放の精神に基いて作品を作っています。私達がこうして

作った作品を広く一般の方々に見ていただくとうと年に一度、学部書道部と「わらべ書展」を設け、また短大祭等にも、一年間のクラブ生活の成果を見ていただくとうと、力を合わせ活動を行なっています。

その他のクラブ・同好会・愛好会として、弓道、軟式テニス、自動車、バドミントン、バスケット、スキー、硬式テニス、フィギュア・スケート、バレーボール(以上体連関係)観光事業研究会、演劇、フォークソング、映画研究、放送研究、ギターアンサンブル、混声合唱、心理研究会、エレクトーン、国文研究(以上文連関係)

☆聖書研究の集い

現在、短大内で二つの集いがあります。月曜の昼休みには紫三九男先生を中心として、佐藤三郎先生、徳永透先生などが参加されています。また、今夏米国より本学英文科の専任として来られたミセス・スウィーズビーは、本学学生を対象として、週に二回英語のバイブルクラスを開いて下さっています。火曜は宮川喜代江先生、木曜は御園和夫先生が通訳をかねて補助をされております。なお、毎週

金曜昼休みには、下田哲先生(宗教主事)による礼拝が守られています。小さな種が六十倍にも百倍にもなつて結実しますように。

編集後記

紅葉の美しい朝比奈峠を、香葉編集の集りの往來に見る。素人編集ながら「香葉」も四号となった。編集を始めると月日の流れが急テンポとなり、駆け足で日々が去つてしまうかのような。紅葉会事務担当の石垣さんが欠けたのは残念だが、新たに強力なメンバーが加わつて、テキパキと事を運んで下さりスムーズに終盤を迎えた。だが、そんな時私達の耳にとびこんできたのは「香葉」編集上の強力な推進力であられる上市先生の奥様の悲報だった。―上市先生に心からのお悔みを申し上げたいと思います。そんなこともあつてだいぶ遅れはしたが、ともかくも割付終了。ホッ／＼

青木千恵子

関東学院女子短期大学

英 文 科 | 家 政 科
語学コース | 家政専攻
文学コース | 食物栄養専攻
国 文 科 | 幼 児 教 育 科

試験日

第1期	2月9日(金)
第2期	3月9日(金)

取得資格

- 中学校教諭（英語・国語・家庭・保健）
- 幼稚園教諭 ● 栄養士免許証 ● 保育資格
- 図書館司書および司書教諭免許状

☎236 横浜市金沢区六浦町4834 ☎横浜045(701)3189

入学案内書～送料共 270円・本学入試事務課K Y係

編集委員 委員長 青木千恵子(短英2) 赤井紀子(短国5)
江口和子(短家17) 清水明代(短国6)

香 葉 第 4 号

昭和48年12月25日 印刷・発行

関東学院同窓会・香葉会

代表者 古城房子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号236

関東学院女子短期大学内

電話《横浜045》781-2001(代表)

781-0148(直通)

印刷所 明光印刷株式会社

關東學院同窓会・香葉会誌